

平成 29 年 5 月 16 日放送

小児外科ってどんな科？



JA とりで総合医療センター
小児外科医師 坂元 直哉

司会者：今年の 4 月から JA とりで総合医療センターに「小児外科」が新設されました。
あまり聞き慣れない科なのですが、一体どのような科なのでしょう？

坂 元：小児外科は文字通りお子さんの手術を行う科です。生まれたてのちっちゃい赤ちゃんから、小児科の範囲とされる 16 歳までのお子様を対象とします。小さいときから経過をみていて、大人になってから具合が悪くなった患者様も手術をすることがあります。

司会者：具体的にはどのような手術が多いのでしょうか？

坂 元：一番多いのが「鼠径ヘルニア」という手術です。一般的には「脱腸」と言われることもあります。

司会者：その「鼠径ヘルニア」についてももう少し詳しく教えてください

坂 元：「鼠径」というのは足の付け根の部分のことです。赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいるときにこの部分をお腹の中からみると天狗のお鼻みたいなトンネルが開いています。通常であればそのトンネルは自然に閉じるのですが、トンネルが開いたままになり、そこから腸などが出てしまう病気のことを言います。

司会者：それは外から見て分かるものなのでしょうか？

坂 元：程度にもよりますが、腸管が穴の中に飛び出している時には足の付け根がぼこっと飛び出しているのが見て分かります。飛び出している腸の量が多い場合には陰囊まで膨らむことがあります。

司会者：それは自然に治るものなののでしょうか？

坂元：1歳ころまでには9割が自然に閉じると言われています。しかし1歳を超えても出ていたり、またこれまで出てなかったのに新しく出てきた場合などは自然に治ることがないと言われていきますので手術をお勧めします。

司会者：ヘルニアと診断されているこどもで注意しなければいけないことはありますか？

坂元：出ても元に戻るようであれば心配ありません。泣くとお腹の圧力が高くなって出やすくなりますが、泣き止んだ後で見てみて、戻っているようであれば様子を見てもらって構いません。

司会者：ではどのような時に急いで病院を受診すればいいのでしょうか

坂元：ヘルニアで怖いのは、出た腸の血のめぐりが悪くなってしまうことです。血の巡りが悪くなると腸が浮腫んでしまい、よけいに血が行かなくなり、さらに浮腫んでしまうという悪循環に陥ってしまいます。腸が戻らない場合、次の3つを観察し、一つでも当てはまった場合は受診してください。
①色が明らかに赤黒くなったり青黒くなったりしていないか②いつもと比べて固くなっていないかどうか③吐いていないかどうかの3つです。

司会者：戻らなくなったら手術になってしまうのでしょうか？

坂元：まずは我々小児外科医の手でもとに戻すことを試みます。戻ることが多いのですが、どうしても戻らない場合は手術になります。なので、まずは病院に受診して頂くことをお勧めします。

司会者：子供に手術というと怖い気がするのですが。

坂元：手術は全身麻酔をかけて行います。寝ているうちに終わりますし、きずの大きさも2cmに満たない大きさなので術後の痛みもほとんど気にならないお子様もいるくらいです。また当院では非常に優れた麻酔科医の先生が麻酔をかけてくれるので我々も安心して手術に専念できます。

司会者：手術をしないという選択肢はあるのでしょうか

坂 元：手術をしないと腸が出て、もとに戻らなくなる危険がつきまといます。現在の医学では手術以外に完全に治す方法がないのでやはり手術をお勧めします。

司会者：手術にはどのような方法がありますか？

坂 元：足の付け根に小さな切開を加え、袋の根元を直接縛ってきます。大学病院では腹腔鏡というカメラを使った方法でもやっていますが、当院では採用していません。もちろん、腹腔鏡をご希望の方は筑波大学病院に紹介状を書かせて頂きます。

司会者：大学病院とも連携をとっているのですね

坂 元：小児外科というのは非常に奥の深い分野です。経験のある小児外科医でも初めて目にする疾患もあります。そのような場合は当院のみで解決しようとせず、すぐに大学病院に問い合わせます。高度専門病院である大学病院と連携をとりながら、患者さんにとってベストの選択肢を提示できればと思います。

司会者：ヘルニア以外にはどのような疾患が多いのでしょうか

坂 元：乳幼児検診で指摘されることが多い精巣の位置が陰囊の中に入らない、または上がってしまうといった症状を始め、でべそ、頑固な便秘なども診せて頂いています。

司会者：ヘルニアが戻らない以外に、緊急で受診しなければいけない病気はありますか？

坂 元：虫垂炎、異物を飲み込んだ時 です。虫垂炎の場合は手術となりますが、当院は傷が小さくて目立たなくなる最新の方法を採用しています。
また異物を飲み込んだ場合は、飲み込んだものの種類によっては胃カメラを使って緊急で取り出さなければいけない時もあります。何を、いつ、何個飲んでしまったのかを教えて頂けると助かります。

司会者：子供に胃カメラを使うことができるのでしょうか？

坂 元：もちろんお子様にも使える細いタイプの胃カメラを使用しますが、大人では喉の麻酔だけで済むのがお子様では全身麻酔をかけて行わなければいけません。内視鏡室、手術室、麻酔科の先生方といった沢山の部署のスタッフと協力して対処することになります。

司会者：子供は何でも口に入れるので注意が必要ですね。手の届くところに置かない方がいいものは何がありますか？

坂 元：口に入りそうなもの全てに気を付けることはできませんが、それでもボタン電池とピーナッツなどのナッツ類は絶対に子供の近くに置かないようにしてください。

ボタン電池はあらゆる電化製品に入っていますが、もし間違っただけで飲んだ場合、食道に引っかかり、短時間で穴が開いてしまうことが証明されています。またピーナッツは食道ではなく空気の通り道である気管に引っかかり、重症な肺炎を引き起こします。気管の中に入ったピーナッツは肺に酸素を送りながら異物を取り出す特別な器械が必要です。こうなると当院では対処できず、大学病院で行ってもらうことになります。

司会者：身近なものでも間違っただけで飲み込んでしまうととても怖いことになるんですね。それ以外、例えば頭を打ったり、どこかを切ったりした場合はどうすればいいのでしょうか

坂 元：お腹以外の怪我、例えば頭を打った、骨を折ったなどは小児外科の専門分野からは外れてしまいましたが、一般的な怪我などは当直の先生方とも協力して診療にあたっていきます。もちろん我々小児外科が必要な場合はいつでも相談して頂く体制になっているので、これまで通り安心して受診して下さい。

司会者：では最後に一言お願いします

坂 元：みんな優しいスタッフばかりです。手術を受けたお子様が笑顔になれるようスタッフ一同頑張ります。